

「日本の交響楽団」の著者、小川昂氏が受賞
第4回鳥井音楽賞

昭和45年サントリー(株)の創立70周年を記念して設けられた「鳥井音楽賞」(創業者鳥井信治郎にちなんで命名)の第4回審査委員会は、例年通り1月20日午前10時から東京・大手町のパレスホテル桐の間でおこなわれました。

審査は芥川也寸志、古田徳郎、木村重雄、宮沢縦一、門馬直美、丹羽正明、大木正興、菅野浩和、武川寛海、吉田雅夫、吉村一夫の11氏によって2時間にわたって慎重におこなわれ、その結果、昨年6月出版された「日本の交響楽団」(カワイ楽譜)の著者小川昂(たかし)氏(音楽理論・評論家)に決定しました。

「鳥井音楽賞」は、前年度の日本のクラシック音楽の発展、向上に最も寄与した日本人に贈られるもので(賞状・記念品・賞金100万円)、財団法人鳥井音楽財団(理事長佐治敬三)が運営に当たっており、本賞の審査委員会は財団の委嘱により構成されています。

なお、審査委員会推せんの小川昂氏の受賞に同財団の全理事が賛同し、第4回鳥井音楽賞は同氏に決定しました。

× × ×

審査経過と小川昂氏推せんの理由

第4回鳥井音楽賞選考経過について、同日午後2時20分、審査員代表宮沢縦一氏から概略がつぎのように発表されました。

選考は各審査委員が個別に挙げた候補個人12名、団体5の審査からはじまりました。

< 候補 >

- | | |
|-------|--|
| 個人12名 | 飯守泰次郎、小川昂、秋山和慶、江藤俊哉、三善晃、団伊玖磨、栗林義信、村山未知、原田茂生、和波孝、滝淳、小沢征爾。 |
| 団体5 | 東京カルテット、解散通告後・分裂前の日本フィルハーモニー交響楽団、巖本真理弦楽4重奏団、東京室内歌劇場、二期会(順不同) |

この候補について審査が続けられ、小川昂、団伊玖磨にしばられ、

最終的に小川昂氏を推せんすることに全員が賛成しました。

推せん理由

小川昂編「日本の交響楽団」(株・カワイ楽譜)は、現存する日本各地の職業的交響楽団の定期公演のデータを、洩れなく正確に記録したもので、昭和初頭から最近まで45年間に及ぶわが国のオーケストラ活動の全貌がこれによって一目瞭然である。さらに本書では、作曲家別・作品別などの分類表記によって利用者の便が計られているばかりでなく、来日した外国オーケストラの公演記録も付記されているので、研究者に資するところは至大であると信じられる。

音楽会の諸活動の資料的研究・調査は、諸外国では当然のこととして整備されているが、わが国においては、これまで必ずしも充分ではなく、このような集大成ともいふべき力作が完成をみたことは、画期的な意義をもつものと認められる。

これは小川氏の音楽ライブラリアンとしての多年の調査・研究をもってして、はじめて可能な仕事であり、その業績は斯界に貢献するところが甚大である。

小川 昂(たかし)氏略歴

音楽理論・評論家、音楽図書館研究

明治45年3月1日東京生 60才

東京都目黒区上目黒3-27-17(電話)713-4707

最終学歴	文部省図書館講習所 昭和10年卒業
現職	日本音楽著作権協会資料部
前歴	NHK音楽資料課長 NHK資料部長 NHK音楽部長 NHK交響楽団事務長
関係団体	音楽ペンクラブ 日本図書館協会 国際音楽図書館協会
主著書	「レコードは如何に整理するか」音楽之友社 「本邦洋楽関係図書目録」 「レコードの整理」明治図書 「楽符の記述」春陽堂 「日本の交響楽団」カワイ楽譜

(写真説明)

第4回鳥井音楽賞受賞者、小川昂氏。

以 上